

光和コンピューター20周年、572人が参加 紀伊國屋がPOS導入完了(2011/10/25)

光和コンピューターは創業20周年を記念して10月20日、東京・千代田区のホテルニューオータニで感謝の会を開催、取引先の出版社、書店をはじめとして572人が参加した。柴崎和博社長は今後の展望として、「ウェブ、サイネージ、RFIDを組み合わせたマーケティングソリューションを出版業界の枠を超えて提案し、そのノウハウを出版業界に歓迎したい」と抱負を語った。

同社は91年4月の創業以来、出版社向け独立系システム会社として事業を拡大し、書店システムなども加えて成長してきた。来賓あいさつに立った紀伊國屋書店・高井昌史社長は、同社のPOSシステムを全店に配備したことと、川越店で近刊予約機能などを備えた同社の情報端末「PiTSPOT」のテスト導入を開始したことを報告し「大きな成果をあげてを期待している」とあいさつ。

幻冬舎・小玉圭太取締役専務執行役員は、「93年に創業したが役員のほとんどが編集者で管理やシステムがダメな前近代的な会社だった。しかし、3年目で文庫を創刊するにあたって、さすがにシステムが必要と考え、光和コンピューターに出会った。会社でいちばん大切なのは人の力だが、光和コンピューターはアナログな会社を普通の会社に引き上げてくれた」と導入の経緯などを語った。

続いて、書店との直接取引を行っているディスカヴァー・トゥエンティワン・干場弓子社長が「直接取引で独立したいという相談を受けるが、大切なのは営業とシステムだと言っている。光和コンピューターは、いろいろな要望に嫌と言わずに応えてくれる誠実さを感じる会社。来年のリニューアルもお願いしたい」と述べた。

主催者の柴崎社長は、「出版業界に地殻変動が起きていると感じる。当社には新しい時代の出版社、書店のシステムを構築する義務がある」と述べた上で、「同時に業界レベルでEDIによってマーケティングしていくことが重要だと思う。日本出版インフラセンター(JPO)の近刊情報センター設立は、予約市場を作ろうという呼びかけだと受け取り、そのためのサイトを開設し、PiTSPOTを開発した。今後は既刊書や電子書籍に広げたい」と語った。さらに、「ウェブ、サイネージ、RFID」を活用したソリューションの開発に意欲を示した。

このあと、JPO・永井祥一専務理事が乾杯を行って開宴。同社の事業紹介映像の上映や、出席者へのインタビューなども行われ、最後に同社・寺川光男専務が中締めを行った。